

# 変容する ASEANの商業銀行





# 目次

まえがき i

<b>第1章 序論——ASEANの商業銀行の変容——</b>	
..... 三重野文晴	I
第1節 はじめに	I
第2節 ASEAN商業銀行部門の近年の変容	
——その背景——	3
2-1 実物経済の局面と金融システム	3
2-2 資本フローの変化	5
2-3 2000年代以降の金融深化と商業銀行部門の位置	5
第3節 ASEAN商業銀行部門の近年の変容——要点——	6
3-1 ASEANの商業銀行部門	6
3-2 銀行部門の合併と外資参入の新動向	13
3-3 ASEAN経済統合と域内業務拡大	16
第4節 本書の構成	17
<b>第2章 国際経済環境の変化とASEANのマクロ経済動向</b>	
..... 国宗浩三	23
はじめに	23
第1節 マクロ経済の構造とその課題	24
1-1 ASEAN諸国の経済発展（概観）	24
1-2 アジア金融危機と平均成長率の低下（ASEAN5）	26
1-3 貯蓄・投資バランス——金融危機を境に	
一部の国では投資超過から貯蓄超過へ——	31
1-4 外貨準備の蓄積	32
第2節 金融深化と資本市場の成長	35
第3節 金融収支の分析	37
3-1 概念整理	37

3-2	アグリゲートの金融収支の動き	39
3-3	資本流出（負債増加）と資本流入（金融資産増加）を 区別した分析	41
	おわりに	50

### 第3章 財務指標によるASEAN商業銀行の特徴の分析 ..... 濱田美紀・金京拓司 53

	はじめに	53
第1節	ASEAN 6 カ国の銀行部門	54
第2節	ASEAN 6 カ国の銀行財務指標比較	57
2-1	サンプルについて	57
2-2	財務指標の推移	59
第3節	財務指標によるクラスター分析	66
3-1	分析手順	68
3-2	主成分分析の結果	69
3-3	クラスター分析の結果	70
	おわりに	76

### 第4章 ASEANにおける商業銀行の域内統合と外資の参入 ..... 清水聡 79

	はじめに	79
第1節	域内銀行統合を促進する要因	80
1-1	域内銀行統合の政策面	80
1-2	域内銀行統合の実態面	82
第2節	アジアに向かうクロスボーダーの銀行融資の動向	84
2-1	域内銀行統合の進展	84
2-2	外国銀行のプレゼンスの増大	85
第3節	東南アジアにおける域内外の銀行の拠点展開・ 出資の動向	89
3-1	域内における拠点展開の動向	89

3-2	域内における出資の動向	90
3-3	邦銀のアジア向けビジネスの拡大状況	92
第4節	シンガポールの銀行の動向	96
4-1	銀行部門の概要	96
4-2	DBS Group	100
4-3	OCBC Group	103
4-4	UOB Group	106
	おわりに	109

## 第5章 インドネシア商業銀行の外資導入による変容

.....	濱田美紀	111
はじめに		111
第1節	インドネシアの金融部門の現状	112
第2節	アジア金融危機後の銀行再建策	117
第3節	続く外国銀行の参入	118
3-1	第1段階——危機後の国有株式の放出、大型買収——	119
3-2	第2段階——中規模銀行の買収——	120
3-3	第3段階——中小規模銀行の 東アジアの銀行による買収・財閥の復帰——	121
3-4	第4段階——持ち株比率のさらなる引き上げ——	122
第4節	財務指標の改善と外国銀行参入の要因	123
4-1	財務指標の推移	123
4-2	外国銀行参入の背景	127
第5節	デジタルエコノミーの進展と銀行部門の変化	129
5-1	所得格差とインターネットの普及	129
5-2	急速な電子マネーの普及・銀行業のデジタル化	132
	おわりに	135

## 第6章 タイ商業銀行の所有・収益構造の変容

.....	三重野文晴・芦宛雪	141
-------	-----------	-----

はじめに	141
第1節 2000年代以降の政策基調と銀行部門の再編	142
1-1 2000～2010年代の経済環境	142
1-2 銀行部門への政策基調 ——金融セクター・マスタープラン——	144
1-3 商業銀行部門の再編	146
第2節 新規参入と競争環境	151
2-1 商業銀行の市場構造	151
2-2 競争環境の変化	156
第3節 商業銀行のビジネスモデルの変容	159
3-1 マクロ金融環境の変化	159
3-2 収益構造——収入構造と経営効率——	162
3-3 外国銀行の競争力	165
おわりに	168

## 第7章 フィリピン商業銀行部門の現状……柏原千英 171

はじめに	171
第1節 2000年以降の商業銀行部門	172
1-1 プレーヤーの構成とシェア	172
1-2 経済状況と金融深化, 与信傾向	174
第2節 中央銀行による銀行部門改革 ——施策の方向性と成果——	181
2-1 外資行・資本の参入誘致	182
2-2 財務基盤の強化	183
2-3 金融アクセスの普遍化	186
第3節 国内商業銀行の事業展開と収益性	189
3-1 買収／合併による物理的ネットワークの拡大	189
3-2 戦略的提携と金融コングロマリット化	190
3-3 通信・デジタル技術の取り込みと サービス提供基盤の拡大	191

3-4	事業展開の種類と収益性の比較	192
3-5	近年の事例からみる今後の展望	194
おわりに		198





## 複製許可およびPDF版の提供について

点訳データ、音読データ、拡大写本データなど、視覚障害者のための利用に限り、非営利目的を条件として、本書の内容を複製することを認めます (<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/reproduction.html>)。転載許可担当宛に書面でお申し込みください。

また、視覚障害、肢体不自由などを理由として必要とされる方に、本書のPDF ファイルを提供します。下記のPDF 版申込書（コピー不可）を切り取り、必要事項をご記入のうえ、販売担当宛にご郵送ください。

折り返しPDF ファイルを電子メールに添付してお送りします。

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3丁目2番2

日本貿易振興機構 アジア経済研究所

学術情報センター成果出版課 各担当宛

ご連絡頂いた個人情報、アジア経済研究所成果出版課（個人情報保護管理者－成果出版課長 043-299-9534）が厳重に管理し、本用途以外には使用いたしません。また、ご本人の承諾なく第三者に開示することはありません。

アジア経済研究所学術情報センター 成果出版課長

PDF版の提供を申し込みます。他の用途には利用しません。

三重野 文晴 編

『変容するASEANの商業銀行』

【アジア研選書 No. 56】2020年

住所 〒

氏名：

年齢：

職業：

電話番号：

電子メールアドレス：



執筆者一覧（執筆順）

みえの ふみはる  
三重野 文晴（京都大学東南アジア地域研究研究所教授）

くにむね こうぞう  
国宗 浩三（関西学院大学国際学部教授）

はまだ みき  
濱田 美紀（アジア経済研究所開発研究センター主任研究員）

きんきょう たくじ  
金京 拓司（神戸大学大学院経済学研究科教授）

しみず さとし  
清水 聡（株式会社日本総合研究所調査部主任研究員）

ろ えんせつ  
芦 宛雪（京都大学東南アジア地域研究研究所連携研究員）

かしわばら ちえ  
柏原 千英（アジア経済研究所開発研究センター主任研究員）

[アジ研選書 No. 56]

## 変容するASEANの商業銀行

2020年3月19日発行

定価 [本体2,600円+税]

編者 三重野 文晴

発行所 アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県千葉市美浜区若葉3丁目2番2 〒261-8545

学術情報センター 電話 043-299-9735（販売）

FAX 043-299-9736（販売）

E-mail syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

印刷所 モリモト印刷株式会社

©独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 2020

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

無断転載を禁ず

ISBN 978-4-258-29056-7

# 出版案内 「アジ研選書」

(表示価格は本体価格です)

56	変容する ASEAN の商業銀行 三重野文晴編 2020年 203p. 2600円	アジア金融危機から20年、混乱の中核にいたASEANの商業銀行は、アジアの経済成長や世界金融危機を経て、どのように変容したのか。金融データと国別研究から探る。
55	東アジアの人文・社会科学における研究評価制度とその変化 佐藤幸人編 2020年 208p. 2600円	研究をどう評価すべきか。たとえば、本1冊と論文3本では、どちらを高く評価するのか。こうした問題に興味をもつならば、本書から東アジアの人文・社会科学の取組みを知ってほしい。
54	マクロ計量モデル その利用と応用 植村仁一編 2020年 184p. 2300円	マクロ計量モデルを中心としたシナリオ分析例を紹介し、発展段階の異なる経済への応用の一助とする。また、東アジア貿易リンクモデルを用い、昨今の米中情勢がもたらす同地域への影響を展望する。
53	現代フィリピンの法と政治 再民主化後 30 年の軌跡 知花いづみ・今泉慎也著 2019年 182p. 2300円	アジア諸国における民主化運動と憲法改革の先駆けとなったフィリピンの1987年憲法の制度設計と政治・社会との関係の考察を通じて、フィリピンの政治と法の課題を探る。
52	21世紀のフィリピン経済・政治・産業 最後の龍になれるか？ 柏原千英編 2019年 186p. 2400円	「アジアの奇跡」に乗り遅れたフィリピンは、約30年遅れて「最後の龍」になれるだろうか。近年、活況を呈する同国の2000年代以降における経済・政治・産業を概観・解説する。
51	アジアの障害者のアクセシビリティ法制 バリアフリー化の現状と課題 小林昌之編 2019年 207p. 2600円	障害者がほかの者と平等に人権および基本的自由を享有するための前提条件であるアクセシビリティの保障について、アジア6カ国の法整備の実態を分析し、課題を明らかにする。
50	習近平「新時代」の中国 大西康雄編 2019年 214p. 2600円	2期10年の慣例を超えた長期政権を目指す習近平政権は、多くの課題に直面している。本書では、諸課題の分析を通じ、政権が「新時代」を切り拓くための条件を展望する。
49	不妊治療の時代の中東 家族をつくる、家族を生きる 村上 薫編 2018年 245p. 3100円	男女とも「親になって一人前」とされる中東。不妊治療が急速に普及する今、人々は家族をどうつくり、生きようとしているのか。宗教倫理・医療的背景とともに、その営みを描く。
48	ハイチとドミニカ共和国 ひとつの島に共存するカリブ二国の発展と今 山岡加奈子編 2018年 200p. 2500円	カリブ海に浮かぶイスパノアフリカ系とドミニカ共和国。日本ではほとんど知られていない両国は、開発と経済発展、個人主義の歴史、国民の生活水準、貧困と格差、大国の介入といった点で、共通点と際立った差異の両方を見ている。中米・カリブの専門家によるバイオニア的研究書。
47	マクロ計量モデルの基礎と実際 東アジアを中心に 植村仁一編 2018年 204p. 2600円	分析手法としてのマクロ計量モデルの歴史、構築のイロハから各国での活用例、大規模モデルへの発展まで、東アジアを中心として解説する。また、今後同地域が直面していくであろう高齢化といった問題を取り込む試みも行う。
46	低成長時代を迎えた韓国 安倍 誠編 2017年 203p. 2500円	かつてのダイナミズムを失って低成長と格差の拡大に苦しむ韓国の現在を、産業競争力と構造調整、高齢化と貧困、非正規雇用、社会保障政策の各テーマを中心に描き出す。